

『般若心経』について (一)

野口圭也 (種智院大学客員教授)

はじめに

私たちが最も日常的に接する機会の多い仏教經典に『般若心経』があります。『般若心経』は声に出して読んだり (読誦)、書き写したり (写経)、300字に満たない短い文章に含まれる意味を考えたり、学んだりして、今日でも多くの人々に親しまれています。特に最近、ちょっとした『般若心経』ブームの感があり、数多くの書籍が出版されています。

私自身もまた、インド密教学を中心としたこれまでの研究の中で、また寺院の住職を勤める間に、『般若心経』について授業で取り上げたり、自分なりに勉強したり考えたりしてきました。ここでは、いま現在『般若心経』について私が考え、理解していることをお話しし、皆さんが『般若心経』について知り、考えるきっかけを提供したいと思います。

このシリーズは次の様な構成になっています。

- I. 『般若心経』の解説書について
- II. 『般若心経』のテキストについて
- III. 『般若心経』の内容について
- IV. 『般若心経』の読誦と写経について

まず現在多数出版されている、『般若心経』の解説書を分類してみました。その上で、『般若心経』を知るうえでの、基本的な心構えというか、考え方に触れてみたいと思います。次に、内容を理解する前提となる、『般若心経』という文献について簡単に解説しました。その上で、いよいよ經典に説かれている内容について考えていきます。これは何回かに分けて、文章を少しずつ解釈します。

最後に、誰でもが気軽にできる『般若心経』の実践の一つとして、読経と写経を取り上げ、その功德と歴史について解説します。

I. 『般若心経』の解説書について

このところ『般若心経』関係の出版物が大変多くなっています。インターネット書店の Amazon で「般若心経」で検索したら、2006年5月3日現在で368件ありました。売れている順番は、1位. ひろさちや『般若心経88講』、2位. 新井満『自由訳般若心経』、3位. ひろさちや・荒井紫峰『書き込み式「般若心経」練習帳』でした。ずっと1位をキープしていた柳澤桂子著『生きて死ぬ智慧』は4位になっていました。

『般若心経』についての本を何冊かお読みになった方はお気づきと思いますが、どの本も著者自身の (場合によってはかなり独自の) 読み方・考え方によって書かれており、本によって内容にかなりの違いが見られます。

これらの本を試みに次のように分類して、一例を挙げてみました。実際には幾つかのタイプにまたがるものも多いです。

1. 入門系: 『般若心経』の内容や関係する事柄について、簡単に解説したもの

よりとみもとひろ
～頼富本宏編著、今井淨圓・那須真裕美著『図解雑学般若心経』ナツメ社、2003

2. テキスト系：『般若心経』の原文テキストそのものを扱ったもの
～中村元・紀野一義『般若心経・金剛般若経』岩波文庫、1960
3. 思想系：主として仏教学者が『般若心経』の思想について論じたもの
 - A. 伝統派：友松圓諦『般若心経講話』大法輪閣、1977（元々は1956）
 - B. 新しい解釈派
 - a. エラソー型～敢えて書名を挙げるのを控える。自分のこの解釈が絶対正しくて、今までの本はみんな間違いだらけだ、と他の本をボロカスにけなして、自分の解釈をエラソーに主張する。固定観念や「こだわり」や「とらわれ」を離れているのが「般若波羅蜜」の「空」の境地だとすると、このような書き方は、あまり「空」的とは言えない気がする。
 - b. 謙虚型～立川武蔵『般若心経の新しい読み方』春秋社、2001「本書が『般若心経』の理解にほんのすこしでも役立つことを祈りつつ」（p.282）
4. 一般系：信仰的または日常的な立場から、一般向けに『般若心経』を説明したもの。
 - A. 布教伝道型～諸橋精光『般若心経絵本』小学館、2005
 - B. 個人体験型～柳澤桂子『生きて死ぬ智慧』小学館、2004
 - C. ブットビ型～何と言ったらよいか、という感じの書物で、種類もかなり多い。現代科学とかビジネスとか、多種多様な立場からの解釈がなされている。こういう読み方をすることが可能なのも、『般若心経』の特徴と魅力の一つか。また、このような書物が書かれているのは最近になって始まったこと、という訳でもなく、上記の友松先生の本にも、社会主義や近代科学の立場からの、当時の最新の解釈があることが紹介されている（p.259）。
5. 実修系：『般若心経』に実際に接する体験をするためのもの
 - A. 写経型～川島隆太監修『般若心経脳ドリル 元気脳練習帳』学研、2005
 - B. 読誦型～大栗道栄『声を出して覚える般若心経』中経出版、2002
 - C. 音声型～中村元監修『CD 付般若心経の世界』学研、2004 サンسكريット語・中国語・韓国語・現代語訳の『般若心経』を聞くことができる。次のヴィジュアル系の要素も含む。
6. ヴィジュアル系：美しい写真や映像を多用して、『般若心経』の世界をイメージで表現しようとするもの。～大谷幸三著、菊地和男写真『ダライ・ラマの般若心経 PHOTO BOOK&DVD』ジェネオン エンタテインメント、2004。ダライ・ラマ14世の法話が収められているので、思想系や、一般系の布教伝道型の要素も強い。